

【原著】

避難者に対して効果的に保健情報を伝えるための掲示の検討 —大学生を対象とした調査から—

伊藤 和佳奈*1 助田 夏音*1 多喜代 健吾*2 北宮 千秋*2

2024年3月18日受付, 2025年1月14日受理

要旨：避難者に対して効果的に保健情報を伝えることを目的に、貼り紙の素材や作成方法の検討を行った。方法は、A大学の大学生29名を対象に、4種類の貼り紙（貼り紙①電子・イラストなし、貼り紙②電子・イラストあり、貼り紙③手書き・普通紙、貼り紙④手書き・ダンボール）を事例と共に提示し、無記名自記式質問紙を用いて調査した。その結果、避難者へ効果的に保健情報を伝えるためには、切迫感や緊急性、親しみやすさなど避難者の感情に変化をもたらす媒体を選択することが重要であると考えられた。貼り紙を事前に作成する場合も、臨時に作成する場合も共に、避難者の心身の状態や避難所の状況を推測、観察した上で感情に変化をもたらすと考えられる媒体を選択し、作成することが必要であると考えられた。

キーワード：災害, 保健情報, 避難所

I. はじめに

大規模災害が発生するとライフラインの停止や災害に伴った住宅の損壊により避難所生活を余儀なくされることが多い。特に被害が大きい場合、長期間の避難所生活を強いられるため、避難所生活においては健康管理に関する問題が多く指摘されている。実際、2011年に発生した東日本大震災では長期間の避難所生活が強いられた。宮城県石巻市では震災から約10日目の調査において、約300カ所の避難所のうち約3割のトイレに衛生上の問題があることが明らかになった。また、感染伝播を防ぐ上で有効な手指衛生の環境は整えられておらず感染症が発生しやすい状態であった¹⁾。2016年に発生した熊本地震では、4月ではあるが夏が続いたことから、食中毒が発生しやすい状態であったため、手書きの貼り紙を用いて手指衛生や感染症・食中毒に関して喚起していた²⁾。また、身体面の問題について、東日本大震災における石巻地域の避難者543名に深部静脈血栓症(DVT)検診を行ったところ、衛生環境の悪化により飲水を控えたことや活動性の低下などにより165名(30.4%)にDVT所見を認めた³⁾。これらの対策として、医療従事者は、避難所での感染症等の発生状況を把握し、手指衛生の方法、トイレ清掃、汚物処理などの指導を行い、衛生材料配給、貼り紙掲示など集団に向けた健康管理のた

めの対応を行っていた¹⁾。

このように、災害発生時の避難所において、避難者の健康上に問題が生じやすい。医療従事者は危機的状況下においても住民が避難所を生活の場として認識し、かつ住民が主体となって保健行動ができるよう指導や環境整備などを工夫して実施する必要があると考える。

保健行動を促す手段の一つとして、保健情報を避難者に伝える手法である貼り紙の作成が挙げられる。どの自治体も低コストで実施可能であり、内閣府は事前作成を推奨している。実際に、事前作成した貼り紙を使用している避難所も見られた^{2,4)}。一方で、事前作成された貼り紙に加えて、避難所で発生したニーズに合わせて段ボールや紙などにペンで文字を書き、臨時的に手書きの貼り紙を作成することで保健行動を促す避難所も見られた²⁾。

これまでの研究では、貼り紙の素材や作成方法の違いによる避難者への効果的な保健情報の伝え方は明らかになっていない。本研究の目的は、避難者に対して効果的に保健情報を伝えるために、貼り紙の素材や作成方法を検討することである。

II. 対象と方法

1. 対象者

A大学の大学生29名とした。

2. 調査方法

(1) 事例および貼り紙の提示と無記名自記式質問紙調査

2023年7~8月に、対象者に媒体が異なる4種類の貼り紙を、避難所に避難していることを想起しやすい事例と共に提示し(表1)、その後それぞれの貼り紙に対する評価について無記名自記式質問紙を用いて調査した。媒体の異なる4種類の貼り紙として、素材の材質や文字の表記の

*1 弘前大学医学部保健学科看護学専攻
Department of nursing, Division of Health Sciences,
Hirosaki University School of Health Sciences
〒036-8564 青森県弘前市本町66-1 TEL:0172-33-5111
66-1, Honcho, Hirosaki-shi, Aomori, 036-8564, Japan

*2 弘前大学大学院保健学研究科
Hirosaki University Graduate School of Health Sciences
〒036-8564 青森県弘前市本町66-1 TEL:0172-33-5111
66-1, Honcho, Hirosaki-shi, Aomori, 036-8564, Japan

Correspondence Author takidai@hirosaki-u.ac.jp

仕方が異なる①～④の貼り紙を準備した（図 1）。

電子で作成する貼り紙①と②は Microsoft PowerPoint を用いて作成し、字体は宇多の研究より PowerPoint において見やすいとされている「MS ゴシック」を用いた⁵⁾。対象者には、事例を提示後、貼り紙①～④を順に 5 秒間ずつ投影し、それぞれ 3 分間で無記名自記式質問紙を実施した。貼り紙の提示時間については大橋らの研究を参考にした⁶⁾。

表 1 事例と貼り紙の内容

事例 1 「このトイレ使えません」
あなたは、避難所で生活している避難者である。発災から 3 日目であり、水道は止まっているため避難所内のトイレは使えない状況である。次の 4 種類の貼り紙を見て、質問に答えなさい。
事例 2 「手をきれいにしましょう」
あなたは、避難所で生活している避難者である。発災から 7 日目であり、水道は止まっているが、避難所の廊下に手指消毒剤が設置されている。あなたはこれから食事をしようとしている。次の 4 種類の貼り紙を見て、質問に答えなさい。
事例 3 「毎朝 8 時から校庭でラジオ体操します！」
あなたは、避難所で生活している避難者である。発災から 2 か月目であり、これまで A 地区の小学校にて避難所生活を送っていたが、学校再開準備に伴い避難所の統廃合が行われ、先日 B 地区の公民館へと移動になった。そのため避難所における避難者の人数は増加し密集した環境での生活を送っている。避難所での自分のスペースは狭く、精神的疲労も相まって活動性が低下している状態であるため 1 日の大半を自身のスペースであまり動かず過ごしている。現在朝の 7 時半である。次の 4 種類の貼り紙を見て、質問に答えなさい。

貼り紙①：電子・イラストなし	貼り紙②：電子・イラストあり
貼り紙③：手書き・普通紙	貼り紙④：手書き・ダンボール

図 1 貼り紙の種類

(2) 調査項目

調査項目は、足達の「情報が行動に変わる過程」を参考に作成し、以下の 1) ～4) とした⁷⁾。特に 4) 感覚的の評価に関しては、理解、納得など過程を踏む中で生じると推測される項目を質問した。2) ～4) に関しては、事例別、媒体別を実施し、「全くそう思わない」、「そう思わない」、「そう思う」、「非常にそう思う」の 4 段階で質問した。

- 1) 基本属性 (学年, 性別, 出身地, 避難所生活経験の有無)
- 2) 行動への影響の評価 (貼り紙を見た時点での行動への影響, 今後の行動への影響)

事例 1 「今トイレを使わないか」、「今後もトイレを使わないか」

事例 2 「手指消毒剤を今使おうと思うか」、「手指消毒剤をこれからも意識して使おうと思うか」

事例 3 「今日の体操に参加しようと思うか」、「今後も継続

して体操に参加しようと思うか」

3) 視覚的評価 (見やすいか)

4) 感覚的評価 (親しみやすさがあるか, 安心感があるか, 興味が湧くか, 心に訴えがあるか, 切迫感があるか, 緊急性を感じるか, 説得力があるか, 脳裏に焼き付くか)

3. データ分析方法

事例における媒体ごとの視覚的評価, 感覚的評価, 行動への影響の評価の比較には Friedman 検定を行い, 有意差が見られた項目においては Bonferroni 補正を行った。有意水準は 5% とした。統計解析には SPSS 25 を用いた。また, 分析手順として, 始めに調査項目の 2) 行動への影響の評価について分析した後, 有意差が見られた媒体のみに着目し, 3) 視覚的評価, 4) 感覚的評価の解析を行った。

4. 倫理的配慮

調査への協力は自由であり, 調査実施の際には本研究の目的やプライバシーの配慮について説明を行った。参加同意書の記入をもって本研究への参加同意が得られたことにした。弘前大学大学院保健学研究科倫理委員会の承認 (HS2023-031) を得て実施した。

III. 結果

1. 対象者の属性 (表 2)

学年は 4 年生が 22 人 (75.9%) で最も多かった。性別は男性 2 人 (6.9%), 女性 27 人 (93.1%) であった。被災経験の有無に関しては被災経験ありが 3 人 (10.3%), 被災経験なしが 26 人 (89.7%) であった。

表 2 対象者の属性 (n=29)

		n	%
学年	1年生	1	3.4
	2年生	2	6.9
	3年生	4	13.8
	4年生	22	75.9
性別	男性	2	6.9
	女性	27	93.1
被災経験の有無	あり	3	10.3
	なし	26	89.7

2. 事例における媒体ごとの行動への影響の評価, 視覚的評価, 感覚的評価

(1) 事例 1 「このトイレ使えません」

① 行動への影響の評価

行動への影響の媒体別の比較では、「今トイレを使わないか」において有意差はみられなかった。また、「今後もトイレを使わないか」においても, 有意差は見られなかった (表 3)。

表3 事例1「このトイレ使えません」
行動への影響の評価 媒体別比較

媒体の種類	貼り紙を見た時点での行動への影響 「今トイレ使わないか」		
	中央値	平均値	多重比較
	貼り紙①：電子・イラストなし	3	
貼り紙②：電子・イラストあり	4	(3.66)	n. s
貼り紙③：手書き・普通紙	3	(3.38)	
貼り紙④：手書き・ダンボール	4	(3.52)	
媒体の種類	今後の行動への影響 「今後もトイレを使わないか」		
	中央値	平均値	多重比較
	貼り紙①：電子・イラストなし	3	
貼り紙②：電子・イラストあり	3	(3.28)	n. s
貼り紙③：手書き・普通紙	3	(2.86)	
貼り紙④：手書き・ダンボール	3	(3.10)	

Friedman検定

(2) 事例2「手をきれいにしましょう」

①行動への影響の評価

行動への影響の媒体別の比較では、「手指消毒剤を今使おうと思うか」において有意差はみられなかった。

一方、「手指消毒剤をこれからも意識して使おうと思うか」において、貼り紙④が貼り紙①より有意に使おうと思えていた ($p < .05$) (表4)。

表4 事例2「手をきれいにしましょう」
行動への影響の評価 媒体別比較

媒体の種類	貼り紙を見た時点での行動への影響 「手指消毒剤を今使おうと思うか」		
	中央値	平均値	多重比較
	貼り紙①：電子・イラストなし	3	
貼り紙②：電子・イラストあり	3	(3.21)	n. s
貼り紙③：手書き・普通紙	3	(3.21)	
貼り紙④：手書き・ダンボール	3	(3.34)	
媒体の種類	今後の行動への影響 「手指消毒剤をこれからも意識して使おうと思うか」		
	中央値	平均値	多重比較
	貼り紙①：電子・イラストなし	2	
貼り紙②：電子・イラストあり	3	(2.90)]
貼り紙③：手書き・普通紙	3	(2.72)	
貼り紙④：手書き・ダンボール	3	(3.10)	

Friedman検定, Bonferroni ($p < .05$)

②視覚的評価

視覚的評価の媒体別の比較では、「見やすいか」において貼り紙①が貼り紙④より有意に見やすかった ($p < .05$) (表5)。

表5 事例2「手をきれいにしましょう」
視覚的評価 媒体別比較

媒体の種類	「見やすいか」		
	中央値	平均値	多重比較
	貼り紙①：電子・イラストなし	3	
貼り紙②：電子・イラストあり	3	(2.62)]
貼り紙③：手書き・普通紙	3	(2.69)	
貼り紙④：手書き・ダンボール	3	(2.66)	

Friedman検定, Bonferroni ($p < .05$)

③感覚的評価

感覚的評価の媒体別の比較では、「親しみやすさがあるか」、「興味が湧くか」、「心に訴えがあるか」、「切迫感があるか」、「緊急性を感じるか」、「脳裏に焼き付くか」において貼り紙④が貼り紙①より有意に高かった ($p < .05$) (表6)。

表6 事例2「手をきれいにしましょう」
感覚的評価 媒体別比較

媒体の種類	「親しみやすさがあるか」			「興味が湧くか」		
	中央値	平均値	多重比較	中央値	平均値	多重比較
	貼り紙①：電子・イラストなし	2		(1.97)	2	
貼り紙②：電子・イラストあり	3	(2.90)]	3	(2.55)	
貼り紙③：手書き・普通紙	3	(3.00)		2	(2.48)	
貼り紙④：手書き・ダンボール	3	(2.83)		3	(2.93)	
媒体の種類	「切迫感があるか」			「緊急性を感じるか」		
	中央値	平均値	多重比較	中央値	平均値	多重比較
	貼り紙①：電子・イラストなし	2		(1.62)	2	
貼り紙②：電子・イラストあり	2	(1.69)]	2	(1.69)	
貼り紙③：手書き・普通紙	2	(2.41)		2	(2.34)	
貼り紙④：手書き・ダンボール	3	(3.03)		3	(3.14)	
媒体の種類	「心に訴えがあるか」			「脳裏に焼き付くか」		
	中央値	平均値	多重比較	中央値	平均値	多重比較
	貼り紙①：電子・イラストなし	2		(1.86)	2	
貼り紙②：電子・イラストあり	2	(3.34)]	3	(2.62)	
貼り紙③：手書き・普通紙	3	(2.69)		2	(2.28)	
貼り紙④：手書き・ダンボール	3	(2.90)		3	(3.28)	

Friedman検定, Bonferroni ($p < .05$)

(3) 事例3「毎朝8時から校庭でラジオ体操します！」

①行動への影響の評価

行動への影響の媒体別の比較では、「今日の体操に参加しようと思うか」において、貼り紙②が貼り紙①より有意に参加しようと思えていた ($p < .05$)。

また、「今後も継続して体操に参加しようと思うか」においても、貼り紙②が貼り紙①より有意に参加しようと思えていた ($p < .05$) (表7)。

表7 事例3「毎朝8時から校庭でラジオ体操します！」
行動への影響の評価 媒体別比較

媒体の種類	貼り紙を見た時点での行動への影響 「今日の体操に参加しようと思うか」		
	中央値	平均値	多重比較
	貼り紙①：電子・イラストなし	3	
貼り紙②：電子・イラストあり	3	(3.14)]
貼り紙③：手書き・普通紙	3	(2.90)	
貼り紙④：手書き・ダンボール	3	(2.86)	
媒体の種類	今後の行動への影響 「今後も継続して体操に参加しようと思うか」		
	中央値	平均値	多重比較
	貼り紙①：電子・イラストなし	2	
貼り紙②：電子・イラストあり	3	(2.83)]
貼り紙③：手書き・普通紙	2	(2.41)	
貼り紙④：手書き・ダンボール	2	(2.34)	

Friedman検定, Bonferroni ($p < .05$)

②視覚的評価

視覚的評価の媒体別の比較では、「見やすいか」において貼り紙②が貼り紙③より有意に見やすかった。また、貼り紙②が貼り紙④よりも有意に見やすかった ($p < .05$) (表8)。

表 8 事例 3「毎朝 8 時から校庭でラジオ体操します！」
視覚的評価 媒体別比較 (n=29)

媒体の種類	「見やすいか」		
	中央値	平均値	多重比較
貼り紙①：電子・イラストなし	3	(3.17)]]]]
貼り紙②：電子・イラストあり	4	(3.52)	
貼り紙③：手書き・普通紙	3	(2.76)	
貼り紙④：手書き・ダンボール	2	(2.66)	

Friedman検定, Bonferroni (p<.05)

③感覚的評価

感覚的評価の媒体別の比較では、「親しみやすさがあるか」、「安心感があるか」、「興味が湧くか」、「心に訴えがあるか」、「説得力があるか」、「脳裏に焼き付くか」において貼り紙②が貼り紙①より有意に高かった (p<.05) (表 9)。

表 9 事例 3「毎朝 8 時から校庭でラジオ体操します！」
感覚的評価 媒体別比較 (n=29)

媒体の種類	「親しみやすさがあるか」			「安心感があるか」		
	中央値	平均値	多重比較	中央値	平均値	多重比較
貼り紙①：電子・イラストなし	2	(1.90)]]]]	2	(1.93)]]]]
貼り紙②：電子・イラストあり	3	(3.45)		3	(3.17)	
貼り紙③：手書き・普通紙	3	(3.21)		3	(2.90)	
貼り紙④：手書き・ダンボール	3	(2.72)		2	(2.41)	

媒体の種類	「興味が湧くか」			「心に訴えがあるか」		
	中央値	平均値	多重比較	中央値	平均値	多重比較
貼り紙①：電子・イラストなし	2	(2.17)]]]]	2	(1.90)]]]]
貼り紙②：電子・イラストあり	3	(3.17)		3	(2.90)	
貼り紙③：手書き・普通紙	3	(2.79)		3	(2.76)	
貼り紙④：手書き・ダンボール	3	(2.90)		3	(2.83)	

媒体の種類	「説得力があるか」			「脳裏に焼き付くか」		
	中央値	平均値	多重比較	中央値	平均値	多重比較
貼り紙①：電子・イラストなし	2	(2.34)]]]]	2	(2.28)]]]]
貼り紙②：電子・イラストあり	3	(3.03)		3	(3.10)	
貼り紙③：手書き・普通紙	3	(2.66)		2	(2.34)	
貼り紙④：手書き・ダンボール	2	(2.55)		3	(2.93)	

Friedman検定, Bonferroni (p<.05)

IV. 考察

行動への影響の評価に有意差が見られた事例 2 及び事例 3 について考察していく。

事例 2「手をきれいにしましょう」に関して、感覚的評価の「切迫感があるか」、「緊急性を感じるか」の項目において貼り紙①より貼り紙④の方が有意に高かったことより、貼り紙④のダンボール・手書きで作成した媒体は、作成者側の切迫感や緊急性が彷彿され、それらが避難者にも伝わったことが推測される。秋山らは、災害から 3 日から 1 週間経過すると、新しい生活環境に適応しようという連帯感が避難者に生まれると述べている⁸⁾。周囲に適応しようという心理を抱いているからこそ、切迫感や緊急性の要因を持つ貼り紙を提示することで、避難者は適応への危機感や連帯感が高まり、貼り紙④が貼り紙①より有意に脳裏に焼き付く結果となったことが推測される。そのため、今後も手指消毒剤を使おうという意識が促進されたと考えられる。

事例 3「毎朝 8 時から校庭でラジオ体操します！」に関して、感覚的評価の「親しみやすさがあるか」、「安心感があ

るか」の項目において貼り紙①より貼り紙②の方が有意に高かったことより、貼り紙②の電子・イラストありの媒体は、体を動かすことで得られる心身がリフレッシュされる効果や楽しさが可視化され、参加しやすい雰囲気生まれたことで親しみやすさや安心感につながったと推測される。災害サイクルにおける復興期は、災害発生直後の被害の甚大さや災害発生時に抱いた無力感の継続や災害発生後の長期に渡る生活上のストレス、人間関係、経済的問題などあらゆる要因が心理的变化に影響を及ぼし、PTSD など深刻なこころの反応が継続している時期である⁹⁾。加えて、秋山らは東日本大震災において“6 月になると A 避難所の閉鎖は目前で、次の生活に向けての緊張感が避難所内に蔓延していた。”と述べていることから、同様に緊張感が高まっている事例 3 においても避難者は安心感のニーズが高まる時期であったことが推測される⁸⁾。このニーズはマズローの欲求 5 段階説において第二段階の安全の欲求であり、人間の基本的欲求として区分されている。安心感の要素を貼り紙に持たせることにより避難者の感情により訴えることに繋がり、脳裏に焼き付いたことで、有意に今後も参加しようと思える結果となったことが考えられる。また、安心感のニーズが求められる時期において、そのニーズを満たす貼り紙は、避難者の心に寄り添うものとなり、肯定的な感情を引き出したことが推測される。Schwarz らは受け手が肯定的感情のときには、メッセージの質に関係なくそのときの感情状態を反映した好意的な態度変容、すなわち唱導方向への態度変容が生じると述べている¹⁰⁾。そのため、避難者の中で安心感が肯定的感情を生み出し、貼り紙の説得力が高まったことにより貼り紙を見た時点での行動、さらには今後の行動へも影響を与えたと考えられる。

視覚的評価「見やすいか」に着目すると、事例 2, 事例 3 共に見やすい貼り紙が必ずしも保健行動を促すわけではないという結果が示されている。よって、視覚的な見やすさは、足達の「情報が行動に変わる過程」における第一段階の「注目」を集めるための手段に過ぎないことが考えられる。

事例 1 に関しては、貼り紙の内容が禁止を促す文言であるため、視覚的、感覚的評価に左右されず行動への影響の評価に有意差が見られなかった事が推測される。

以上の考察をまとめると、避難者へ効果的に保健情報を伝えるためには、切迫感や緊急性、親しみやすさなどのように、避難者の感情に変化をもたらす要因を掲示にもたせることが求められると考えられる。また、事例 3 の「安心感」のような肯定的な感情を引き出す要因は、保健情報をより効果的に伝えることにつながり、避難者の行動変容の動機付けとなったことが推測される。しかし、これらの要因は、避難者の心理状態や避難所の状況などによって左右される。よって、事前作成、臨時作成どちらにおいても、避難者の心身の状態や避難所の状況を推測、観察した上で

感情に変化をもたらすと考えられる媒体を選択し、作成することが必要であると考えられる。

V. 研究の限界

本研究の限界は、対象者の属性において「被災経験なし」と回答した人が 89.7%であったことより、事例のみでは避難所を想起しきれない可能性が高いことにある。さらに、対象者の 93.1%が女性であったこと、年代が大学生と限定されていたことなど、対象の属性の偏りもあった。避難者の年齢、性別などは様々であるため、これらを踏まえた上で研究を進め、災害時に住民の保健行動を効果的に促すための一助としたい。

VI. 結語

1. 事例 2「手をきれいにしましょう」において、ダンボールで作成した貼り紙の方が、電子・イラストなしの貼り紙より有意にこれからも意識して手指消毒剤を使おうと思えていた。
2. 事例 3「毎朝 8 時から校庭でラジオ体操します！」において、電子・イラストありの貼り紙の方が、電子・イラストなしの貼り紙より有意に体操に参加しようと思えていた。
3. 切迫感や緊急性、親しみやすさなどのように避難者の感情に変化をもたらす要因、さらには状況に応じて「安心感」などのように肯定的な感情を引き出す要因を貼り紙に持たせることで、より避難者の行動変容の動機付けの要因となる可能性がある。
4. 避難者の心身の状態や避難所の状況を推測、観察した上で感情に変化をもたらすと考えられる媒体を選択し、作成することが必要である。

利益相反 開示すべき利益相反はありません。

謝辞 本研究にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 岡田 淳子, 山水 有紀子, 山根 啓幸, 他: 避難所における避難者が実施した衛生的な行動と感染予防対策. 日本環境感染学会誌,29(6): 437-443, 2014.
- 2) 熊本県: 熊本災害デジタルアーカイブ.
<https://www.kumamoto-archive.jp/post/58-99991jl0004fq8>
(2024-2-14)
- 3) 植田 信策: 東日本大震災被災地でのエコノミークラス症候群. 静脈学,23(4): 327-333, 2012.
- 4) 内閣府: 防災情報のページ. <https://www.bousai.go.jp/> (2024-2-14)
- 5) 宇多 賢治郎: 授業における PowerPoint の使い方の検討と提示. 教育実践学研究,27: 81-100, 2022.

- 6) 大橋 春奈,竹島 由里子,加納 徹:視線移動分析に基づく広告コンテンツ配置の最適化. 第 81 回全国大会講演論文集,175-176,2019.
- 7) 足達 淑子編著: セルフケアを促す治療・指導のために. ライフスタイル療法 I -生活習慣改善のための行動療法-(第 4 版). 2-3, 医歯薬出版株式会社,東京, 2014.
- 8) 秋山 恵子, 関 真由美, 近藤 祐史, 他: 被災者への心理支援の実際. ストレス科学研究,27: 11-16, 2012.
- 9) 酒井 明子, 渥美 公秀: 東日本大震災後の被災者の心理的回復過程 -震災後 7 年間の語りの変化-. 実験社会心理学研究, 59(2): 74-88, 2020.
- 10) Schwarz N, Bless H, Bohner G: Mood and persuasion : Affective states influence the processing of persuasive communications . Advances in experimental social psychology,24:161-199, 1991.

【Original article】

Examining Posters for Effectively Communicating Health Information to Evacuees —From a Survey of University Students—

WAKANA ITO^{*1} NATSUNE SUKEDA^{*1}
KENGO TAKIDAI^{*2} CHIAKI KITAMIYA^{*2}

Received March 18, 2024 ; Accepted January 14, 2025

Abstract: Aim: To effectively communicate health information to evacuees, we examined materials and methods used to create posters with the said information. Methods: The participants were 29 students from University A, who were presented four types of posters (Poster 1: electronic text and no illustrations; Poster 2: electronic text and illustrations; Poster 3: handwriting on regular paper; Poster 4: handwriting on cardboard) along with case examples. We investigated the participants' responses to the posters using anonymous self-administered questionnaires. Results: To effectively communicate health information to evacuees, it was considered important to select media that incorporate factors such as a sense of urgency, immediacy, or familiarity, which can induce changes in evacuees' emotions. Discussion: When creating posters (whether in advance or ad hoc), it is necessary to select media that incorporate factors that induce emotional changes in the evacuees, based on their physical and mental conditions and the conditions at the shelter.

Keywords: Disaster, Health information, Evacuation shelter